

自己の諸側面と自己全体の肯定的意識との関連

—自己肯定、幸福感、意欲、自尊感情を用いた検討—

鈴木 公啓（東京未来大学こども心理学部）

要旨：本研究は、自己の諸側面の評価が自己肯定感、幸福感、意欲、そして自尊感情にどの程度関連しているのか、年齢層と性別も考慮して明らかにすることを目的とした。15歳から70歳の男女867名を対象に実施した。自己肯定、幸福感、意欲、そして自尊感情のそれぞれにおいて、性別や年齢によって自己の諸側面の評価との関連の仕方は異なっていること、ただし、ある程度一貫した傾向もあることが確認された。

キーワード：自己、自己肯定、幸福感、意欲、自尊感情

本研究は、自己の諸側面の評価が自己肯定感、幸福感、意欲、そして自尊感情にどの程度関連しているのか、年齢層と性別も考慮して明らかにすることを目的とする。

我々は、自分というものを折に触れ意識する。その際には、自分の顔立ちや、自分の経済力など、自己を構成する側面毎に認識することが多い。つまり、日常で自己を意識する時には、曖昧前とした自己像だけでなく、個々の比較的具体的側面について意識し、そしてその側面毎に評価がおこなわれているといえる。さらに、その評価によって、特定の感情が喚起したり、行動を生じさせることもある。

自己をどのような側面に分けるかについては、これまで多くの言及がなされてきている。古くには、James (1982) は、自己 (me) を「物質的自己」「社会的自己」「精神的自己」の3つに分類している。また、自己概念を分類した多くの研究において、多種多様な分類がおこなわれている (see, 榎本, 1998)。

その分類された自己の側面は、必ずしも等価な影響力を有しているとは限らない。山本・松井・山成 (1982) も述べているように、中心的な働きをする側面と、そうでない側面が存在する。そして、中心的な働きをする側面での評価が、自己全体としての評価へと強い影響を有していることが想定される。

実際に、自己の諸側面への評価と全体的な自己の評価等との関連についてこれまで検討がなされ、自己の評価の側面によって影響力が異なることが示されてきた。例えば、山本他 (1982) は、大学生を対象に11の自己の諸側面の評価と自尊感情との関連を検討している。そこでは、性差があること、そして、男女ともに優しさや容貌、生き方の3つの側面の評価が自尊感情とある程度関連していることなどを報告している。また、Harter (1985) や眞榮城 (2000) のように、子どもにおける自己の諸側面の評価と全体的な自

己受容感との関連を検討しているものもあり、例えば眞榮城 (2000) は、小学生から中学生の男女ともに、容貌の評価が最も自己受容感に関連していることなどを示している。また、眞榮城 (2006) は、高校生を対象に同様の調査をおこない、容姿が最も自己受容感に関連し、ついで社交性であることを明らかにしている。そして、山本 (2009) は、高校生を対象に自己の諸側面の評価と全体的自己価値の関連を検討し、女子において、特に外見の評価が全体的自己価値に関連していることを示している。さらに山本 (2014) は、中学生の父母を対象に調査をおこない、父親母親ともに、外見と仕事についての評価が全体的自己価値に正に関連し、前者の方が後者よりも強い関連であることを示している。

このように、自己の諸側面への評価と全体的な自己の評価等との関連を検討した研究はいくつかおこなわれてはいるものの、対象の偏りや内容の偏りが存在するといえる。従来の研究の多くは子どもを対象としたものが多く、成人期を対象としたものは限られる。成人期を対象とした山本 (2014) においては、中学生の親が対象であることから、年齢層に偏りがあり、年齢層における諸側面の影響については不明な状態である。さらに、山本 (2014) では「外見」「運動」「仕事」の3つの側面のみを扱っており、内容が限られる。

現在の日本において、男女ともに、そして幅広い年齢層において、いかなる自己の側面の評価が、自己全体の肯定的意識に関連してくるのであろうか。時代が変われば価値観も変わり、自己の側面において重視するものが変化している可能性がある。また、同様に、社会の変化により男女での違いも変化している可能性がある。さらに、そもそもの発達段階により、重視する側面が異なっている可能性がある。性別、年齢層による諸側面における重み付けの変化、そして、そこ

に及ぼす社会的影響を考慮すると、各側面の評価の自己全体への評価への関連性は、多様である可能性はある。

そこで本研究では、幅広い年齢層の成人男女を対象としたうえで、自己の諸側面の評価が、自己全体の肯定的意識とどのように関連しているのか、年齢層と性別による違いも含めて検討することを目的とする。このことにより、現在の我々がどのように自己を捉えているのか、その一端を明らかにすることができると考えられる。なお、自己全体の肯定的意識としては、自己肯定、幸福感、意欲、自尊感情を用いることとする。先述のように、先行研究において、自己肯定（先行研究では、自己受容感なども表現されているがほぼ類似した内容を意味している）や自尊感情との関連は検討されている。そこで、今回改めて、年齢層を広げたいうえで、検討をおこなう。また、内閣府は、幸福感の指標化にあたり、自己と係わる諸側面に該当するような内容区分（例えば、下位分類として、健康や家族など）をおこない、幸福感を判断する際にどの年代がどの側面を重視しているかなどを検討している（内閣府，2011，2012）。本研究では、各側面の評価がどのように幸福感と関連しているかという観点で、検討を試みることとする。また、例えば、自己全体ではなくコミュニケーションに限定されるが、コミュニケーションの能力をどのくらい有しているかという評価が、コミュニケーションの意欲に関連しているという指摘もあり、このことを考慮すると、自己の評価が全体的な意欲に関連している可能性はある。そこで、全体的な意欲に自己の諸側面の評価がどのように関連するかといった枠組みで検討をおこなう。なお、本研究では、意欲は、今後の人生に対するポジティブな態度といった意味で用いることとする。このように、本研究では、自己全体の肯定的意識については、従来の研究をふまえたうえで、多側面からとらえ検討することとする。

方 法

調査対象および手続き

日本全国に居住する15歳以上70歳未満の男女867名（男性423名，女性444名，平均年齢41.18歳， $SD=16.07$ ）を対象とした。web調査サービスに登録しているモニターを対象に、対象の年齢層（10歳刻み）と性別は基本的にはほぼ同数に割り付けて実施した。

最終的な対象者の内訳をAPPENDIX 1に示す。2019年11月にweb調査を実施した。なお、回答者には換金可能なポイントが付与された。

調査内容

自己の諸側面の評価 山本他（1982）などを参考に、従来の内容に対し、多くの状況にある社会人が回答できるような内容へと修正を加えるなどして、最終的に10の側面を準備した。「身体能力」「健康」「容姿」「知的能力」「性格」「人間関係（家族は除く）」「家庭」「仕事上・家事上の能力」「経済力」「社会における立場（地位・役割など）」である。それぞれについて、「1. 非常に悪い／非常に劣っている」から「5. 非常に良い／非常に優れている」の5件法で回答を求めた。

自己全体の肯定的意識 自己全体の肯定的意識を測定するために、いくつかの項目を準備し実施した。自己肯定については「自分に自信を持っている」「自分を肯定的に思っている」「自分自身に満足している」、幸福感については「人生に満足している」「日々の生活が充実している」「今の生活を幸せだと思う」、意欲については「将来に希望を持っている」「やる気に満ちている」を実施した。なお、確認的因子分析をおこなったところ、 $GFI=.946$ ， $AGFI=.879$ ， $RMSEA=.116$ ， $CFI=.963$ であり、大きな問題は無いとみなした。自尊感情については、箕浦・成田（2013）の2項目自尊感情尺度（Two-Item Self-Esteem scale: TISE）を実施した。「自分にはいろいろな良い素質があると思う」「自分のことを好ましく感じる」の2項目である。それぞれ、「1. まったくあてはまらない」「5. 非常にあてはまる」の5件法で回答を求めた。それぞれの項目の合計点を、各指標とした。

結 果

自己の諸側面の評価と、自己全体の肯定的意識の得点の平均値と標準偏差をTable 1に示す。自己の諸側面の評価については、全体的には「家庭」の評価が高く、また、「身体能力」と「容姿」、そして「経済力」と「社会における立場」の評価が低いことが示された。

自己の諸側面の評価における性差や年齢差を確認した。以降、10代と20代、30代と40代、そして50

代と60代をそれぞれ合わせて3つの年齢層（「10-20代」、「30-40代」、「50-60代」）とし、分析に用いた。性別と年齢層別の自己の諸側面の評価をTable 2に、分散分析の結果をTable 3に示す。「身体能力」は男性の評価が高く、「人間関係」と「家庭」は女性の評価が高いことが示された。また、「健康」は10-20代が高く、「仕事上・家事上の能力」は50-60代が高いことが示された。

ここで、自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識との関連を検討した。事前の相関分析により、自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識間、そして、両者内の変数間の相関が非常に強い傾向が認められたこともあり（APPENDIX 2から7を参照）、自己

の諸側面の評価の各変数を説明変数としたステップワイズ法による重回帰分析を自己全体の肯定的意識の変数ごとに実施した。その結果をTable 4からTable 7に示す。自己肯定、幸福感、意欲、そして自尊感情のそれぞれにおいて、性別や年齢によって自己の諸側面の評価との関連の仕方が異なっている点も確認されたが、概観すると共通した傾向があることも示された。概観すると、自己肯定には男性も女性も「容姿」と「社会における立場」が関連する傾向がみられた。幸福には「家庭」が関連し、男性においては「社会における立場」が関連する傾向がみられた。また、自尊感情には「仕事上・家事上の能力」が関連する傾向もみられた。

Table 1 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識の得点の記述統計量

	<i>M</i>	<i>SD</i>
身体能力	2.78	0.98
健康	3.01	0.98
容姿	2.83	0.92
知的能力	3.06	0.94
性格	3.08	0.87
人間関係	3.12	0.98
家庭	3.36	1.01
仕事上・家事上の能力	3.15	0.94
経済力	2.68	1.02
社会における立場	2.75	0.95
自己肯定	8.46	2.88
幸福感	9.02	2.98
意欲	5.69	2.02
自尊感情	5.87	1.92

注) 自己の諸側面は1～5点の範囲を、自己肯定と幸福感は3～15点の範囲を、意欲と自尊感情は2～10点の範囲をとる。

Table 2 性別と年齢層別の自己の諸側面の評価

	男性						女性					
	10-20代		30-40代		50-60代		10-20代		30-40代		50-60代	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
身体能力	2.89	1.28	2.83	0.97	2.92	0.86	2.69	1.03	2.65	0.89	2.73	0.88
健康	3.13	1.25	2.86	1.00	2.90	0.85	3.17	1.00	3.06	0.94	3.00	0.86
容姿	2.89	1.15	2.76	0.97	2.78	0.71	2.78	1.00	2.88	0.91	2.88	0.79
知的能力	3.09	1.21	3.08	0.96	3.20	0.80	2.92	1.01	2.97	0.87	3.12	0.77
性格	3.09	1.14	3.06	0.88	3.20	0.76	2.99	0.91	2.99	0.81	3.16	0.70
人間関係	3.09	1.23	2.92	1.00	3.13	0.86	3.05	1.05	3.24	0.92	3.27	0.84
家庭	3.20	1.33	3.22	0.99	3.41	1.04	3.37	1.04	3.41	0.86	3.54	0.79
仕事上・家事上の能力	3.12	1.15	2.98	1.05	3.31	0.85	3.08	0.95	3.14	0.86	3.26	0.79
経済力	2.77	1.19	2.63	1.11	2.78	1.00	2.54	0.99	2.59	0.92	2.80	0.92
社会における立場	2.85	1.18	2.65	1.06	2.93	0.88	2.69	0.91	2.66	0.85	2.75	0.77

Table 3 自己の諸側面の評価の分散分析結果

	性別 <i>F</i> (1,861)	年齢層 <i>F</i> (1,861)	性別×年齢層 <i>F</i> (2,861)
身体能力	7.956 **	0.599	0.013
健康	2.833	3.530 *	0.510
容姿	0.312	0.013	1.274
知的能力	3.619	2.368	0.212
性格	1.655	2.981	0.104
人間関係	4.242 *	1.511	2.366
家庭	5.810 *	2.952	0.074
工作上・家事上の能力	0.148	4.874 **	1.227
経済力	1.453	2.643	1.035
社会における立場	2.705	2.973	0.995

注) ** $p < .01$, * $p < .05$ 。

Table 4 自己肯定感についての重回帰分析結果

	男性			女性		
	10-20代	30-40代	50-60代	10-20代	30-40代	50-60代
身体能力						.193 **
健康						
容姿	.188 *	.302 ***		.324 ***	.279 ***	.190 **
知的能力			.259 ***			
性格				.225 **		
人間関係	.379 ***					.359 ***
家庭			.241 ***	.169 *	.236 **	
工作上・家事上の能力		.220 **	.202 *		.201 *	
経済力						
社会における立場	.228 *	.396 ***	.194 *	.186 *		.212 **
R^2	.461 ***	.583 ***	.419 ***	.378 ***	.310 ***	.475 ***

注) *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ 。

Table 5 幸福感についての重回帰分析結果

	男性			女性		
	10-20代	30-40代	50-60代	10-20代	30-40代	50-60代
身体能力						
健康			.140 *			
容姿		.259 ***		.173 *		
知的能力			.163 **			
性格						
人間関係	.447 ***					.313 ***
家庭		.216 ***	.325 ***	.404 ***	.482 ***	.262 **
工作上・家事上の能力		.226 **				
経済力			.222 **			.231 ***
社会における立場	.336 ***	.234 **	.217 **	.217 **		
R^2	.478 ***	.532 ***	.532 ***	.346 ***	.232 ***	.376 ***

注) *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ 。

Table 6 意欲についての重回帰分析結果

	男性			女性		
	10-20代	30-40代	50-60代	10-20代	30-40代	50-60代
身体能力						
健康		.141 *	.196 **		.249 **	
容姿		.174 *				.223 **
知的能力						
性格				.206 *	.227 **	
人間関係	.336 ***		.163 *			.253 ***
家庭		.174 *	.225 ***		.208 **	
仕事上・家事上の能力			.210 **			
経済力			.289 ***			.231 **
社会における立場	.347 ***	.391 ***		.275 ***		.250 **
R^2	.361 ***	.480 ***	.555 ***	.144 ***	.271 ***	.471 ***

注) *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ 。

Table 7 自尊感情についての重回帰分析結果

	男性			女性		
	10-20代	30-40代	50-60代	10-20代	30-40代	50-60代
身体能力						
健康						
容姿		.213 **				.230 **
知的能力		.220 **	.171 *			
性格	.289 **		.276 ***	.261 ***	.262 **	
人間関係				.235 **		.199 **
家庭			.156 *			
仕事上・家事上の能力	.203 *	.304 ***	.312 ***		.315 ***	.241 **
経済力						
社会における立場	.218 *	.172 **		.224 **		.209 **
R^2	.359 ***	.547 ***	.468 ***	.291 ***	.261 ***	.423 ***

注) *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ 。

考 察

本研究は、自己の諸側面の評価が自己全体の肯定的意識にどの程度関連しているのか、性別と年齢層も考慮して明らかにすることを目的とした。以降、まずは自己の諸側面の評価の程度について考察したうえで、それらと自己全体の肯定的意識との関連について考察をおこなう。なお、主立った特徴に焦点をあてて考察をおこなうこととする。

まず、基礎的な部分の確認として、諸側面の平均値を概観した。自己の諸側面の評価については、全体的には「家庭」の評価が高く、また、「身体能力」と「容姿」、そして「経済力」と「社会における立場」の評価が低いことが読み取れた。「身体能力」と「容姿」は、生得的で自身との結びつきが強く、「家庭」はミウチであり、自身との結びつきが強いものの、自身をとりまく環境といえる。そして、「経済力」と「社会における立場」は、自身の行いによる成果ではあるものの、第三者からの評価といった外的影響が強いものであ

る。日本人は親しい他者を拡張的自己として自己高揚している (Brown & Kobayashi, 2002) ことを考慮すると、ミウチである家庭を自己高揚的に評価し、そして、自己に極めて近いものを自己卑下的に評価している可能性はある。

自己の諸側面の評価における性差や年齢差を確認したところ、一部において、性差もしくは年齢差が確認された。「身体能力」は男性の評価が高く、「人間関係」と「家庭」は女性の評価が高かった。また、「健康」は10-20代が高く、「仕事上・家事上の能力」は50-60代が高かった。この性差については、性差観が反映されているものと考えられる。自己高揚動機により、ジェンダーによって期待されているものが相対的に高く評価されている可能性がある。年齢差については、健康度は加齢に伴い低下していくため、妥当な評価がなされているといえる。「仕事上・家事上の能力」は、年齢を重ね経験を積むことによって、本人による評価も高くなっていると考えられ、これも理解できる結果といえよう。

自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識との関連を検討したところ、自己肯定、幸福感、意欲、そして自尊感情のそれぞれにおいて、性別や年齢によって自己の諸側面の評価との関連の仕方は異なっていること、ただし、ある程度一貫した傾向もあることが確認された。

例えば、概観すると、自己肯定には男性も女性も「容姿」と「社会における立場」が関連する傾向がみられた。低年齢層を対象とした研究 (e.g., 眞榮城, 2000) や成人を対象とした研究 (山本, 2014) などにより、男女ともに外見が全体的自己価値等に関連していることが示されている。今回、性別、そして年齢層別の検討により、男性の50-60代を除き、容姿が自己肯定感に関連していることが確認され、容姿の重要性が示されたといえる。男性の50-60代は、「(特に男性は) 外見よりも中身」という言説の元に抑圧されてきた世代であることから、容姿が自己の肯定感に結びつかなかった、もしくはそのような評価をおこなわなかったことが考えられる。「社会における立場」は他の研究では扱われていない内容ではある。今回、女性の30-40代を除き、それが自己肯定感に関連していることが確認されている。人は集団に所属したいという根源的な欲求があるため (Baumeister & Leary, 1995)、集団に評価されているという認識が、自身の肯定へと影響しているといえる。なお、女性の30-40代は、子育て世代であり、社会での位置づけよりも子どもとその周辺にコミットメントをおこなっているために、社会での位置づけが自己肯定感に関連しなかったと考えられる。なお、男性は30-40代と50-60代で「仕事上・家事上の能力」が自己肯定感に関連しているが、これは、新人のころは経験値が十分ではないが、それ以降は戦力として働くなど、実際に能力が向上し、さらにそれが自分自身の評価へと寄与している可能性がある。また、女性は10-20代と30-40代で「家庭」が自己肯定感に関連しているが、50-60代はそうではなかった。これは、例えば子どもが独立していくなどして、家庭の位置づけや重要度が変わっていくことが関連している可能性もある。

幸福には、「家庭」が強く関連していることが確認された。これも今回独自の指標ではあるが、家庭という特殊な情緒的結びつきを有する家族によって構成される空間は、その創造に自身が深く関わり、また、生活の基盤になるものでもある。その評価が幸福に

結びついているということは、家庭のそのような特徴によるものといえる。また、男性と10-20代女性においては、「社会における立場」が関連していることが確認された。是非はともかく、男性はジェンダー的に社会で成果を出すことが求められることも多い。そのために、当該の評価が良さが幸福に結びついているのだと考えられる。女性も、30代になると現実的には出産による退職等があるため、それよりも前の年代においては、仕事などの社会における立場の重要度が大きく、そのため、その評価が幸福に結びついたと考えられる。

意欲に関しては、それぞれの性別や年齢層において、自己の諸側面の評価と結びつきがみられたが、特段の傾向は見られなかった。ただし、性格や人間関係、家庭などが関連する傾向はあり、また、男性の10-20代と30-40代、女性の10-20代、50-60代においては、「社会における立場」が関連していた。男性は、社会における立場が報酬となり、意欲に結びついているということが示唆される。とはいえ、50-60代になると、リタイアする人も出てくる年齢であるからか、社会における立場だけではなく、人間関係や家庭など比較的多様な内容にウエイトが分散しつつ移行していることがうかがえる。女性の場合は、子育て世代の前後において「社会における立場」が意欲に関連しており、これは男性と同様に、社会における立場が報酬となり、意欲に結びついているということが示唆される。つまり、男性も女性も、社会でどのような位置づけにあるかについての評価が、将来に対する志向性を促進させているといえる。

自尊感情に関しては、男性も女性も「性格」と「仕事上・家事上の能力」、そして「社会における立場」が関連する傾向が確認された。自尊感情は、ソシオメーター理論 (Leary, Tambor, Terdal, & Downs, 1995; Leary, & Baumeister, 2000) によれば、他者からの受容や拒絶のシグナルである。対人関係において性格の良さは中核的な要素であり、仕事上・家事上の能力も、対人関係が重要である職場などの所属集団において評価の中核的要素となる。そして、仕事上・家事上の能力の良さは、二次的に、社会における立場に影響を及ぼす。このように、比較的継続的な対人関係において、より適応的な状態に導きうる内容についての評価が、自尊感情に影響していると考えられることも可能である。

ところで、自己全体の肯定的意識として、今回は自己肯定、幸福、意欲、そして自尊感情を扱った。これらの相関は極めて強い（サンプル全体では $r=.65\sim.74$ ）ものではあるが、自己の諸側面の評価との関連の仕方は、それぞれある程度の独自のパターンを有していた。自己の諸側面への本人による評価は、性別や年齢、そして、社会における価値観や生活様式等の影響を受けながら、自己肯定、幸福感、意欲、そして自尊感情との独特の関連の仕方をしているといえる。

今回、性別にそして幅広い年齢層別に自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識との関連を検討することによって、自己に関する基礎的知見を提供することができたといえる。個別の関連性について、今後様々な観点から研究が進み、興味深い知見がさらに得られていくことを期待したい。

引用文献

- Baumeister, R. F., & Leary, M. R. (1995). The need to belong: Desire for interpersonal attachments as a fundamental human motivation. *Psychological Bulletin*, 117, 497-529.
- Brown, J., & Kobayashi, C. (2002). Self-enhancement in Japan and America. *Asian Journal of Social Psychology*, 5, 145-167.
- 榎本 博明 (1998). 自己の心理学—自分探しへの誘い— サイエンス社
- Harter, S. (1985). *Manual for the self-Perception Profile for Children*. Unpublished manuscript, University of Denver.
- James, W. (1892). *Psychology: Briefer Course*. New York: Henry Holt.
- Leary, M. R., & Baumeister, R. F. (2000). The nature and function of self-esteem: Sociometer theory. *Advances in Experimental Social Psychology*, 32, 1-62.
- Leary, M. R., Tambor, E. S., Terdal, S. K., & Downs, D. L. (1995). Self-esteem as an interpersonal monitor: The sociometer hypothesis. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68, 518-530.
- 眞榮城 和美 (2000). 児童・思春期における自己評価の構造 応用社会学研究（東京国際大学大学院社会学研究科）, 10, 63-82.
- 眞榮城 和美 (2006). 青年期における自己評価の構造と機能— 高校生の多側面的自己評価と抑うつ感との関連— 日本パーソナリティ心理学会発表論文集, 15, 50-51.
- 町田佳世子 (2010). コミュニケーションの有能感が意欲に及ぼす直接的・間接的影響の解析 札幌市立大学研究論文集 4, 7-14.
- 箕浦 有希久・成田 健一 (2013). 2項目自尊感情尺度の提案— 評価と受容の2側面に注目して— 人文論究（関西学院大学文学部紀要）, 63, 129-147.
- 内閣府 (2011). 幸福度に関する研究会報告—幸福度指標試案—（その1） https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/pdf/koufukudosian_sono1.pdf <2020年1月10日>
- 内閣府 (2012). 平成23年度国民選好度調査（その3） http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10361265/www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h23/23senkou_03.pdf <2020年1月10日>
- 山本 ちか (2009). 高校生の全体的自己価値の検討 名古屋文理大学紀要, 9, 29-36.
- 山本 ちか (2014). 中学生の親の全体的自己価値と具体的側面の自己評価の特徴 名古屋文理大学紀要, 14, 1-8.
- 山本 真理子・松井 豊・山成 由紀子 (1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.

APPENDIX 1 性別と年代別の対象者数

	男性	女性	合計
10代	45	65	110
20代	71	79	150
30代	79	75	154
40代	76	77	153
50代	78	72	150
60代	74	76	150
合計	423	444	867

APPENDIX 2 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識（男性：10-20代）

	身体能力	健康	容姿	知的能力	性格	人間関係	家庭	仕事上・家事上の能力	経済力	社会における立場	自己肯定	幸福	意欲	自尊感情
身体能力	—													
健康	.489 ***	—												
容姿	.626 ***	.593 ***	—											
知的能力	.587 ***	.465 ***	.772 ***	—										
性格	.526 ***	.553 ***	.625 ***	.636 ***	—									
人間関係	.505 ***	.530 ***	.593 ***	.532 ***	.712 ***	—								
家庭	.408 ***	.447 ***	.494 ***	.438 ***	.521 ***	.623 ***	—							
仕事上・家事上の能力	.489 ***	.467 ***	.616 ***	.598 ***	.567 ***	.643 ***	.576 ***	—						
経済力	.527 ***	.536 ***	.567 ***	.608 ***	.509 ***	.503 ***	.509 ***	.700 ***	—					
社会における立場	.600 ***	.491 ***	.578 ***	.564 ***	.462 ***	.548 ***	.440 ***	.704 ***	.706 ***	—				
自己肯定	.374 ***	.421 ***	.545 ***	.470 ***	.537 ***	.616 ***	.400 ***	.575 ***	.480 ***	.545 ***	—			
幸福	.376 ***	.425 ***	.485 ***	.433 ***	.523 ***	.632 ***	.499 ***	.587 ***	.513 ***	.581 ***	.824 ***	—		
意欲	.374 ***	.373 ***	.366 ***	.380 ***	.471 ***	.527 ***	.284 **	.472 ***	.459 ***	.531 ***	.783 ***	.776 ***	—	
自尊感情	.392 ***	.255 ***	.400 ***	.404 ***	.505 ***	.475 ***	.301 **	.520 ***	.440 ***	.495 ***	.734 ***	.711 ***	.744 ***	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

APPENDIX 3 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識（男性：30-40代）

	身体能力	健康	容姿	知的能力	性格	人間関係	家庭	仕事上・家事上の能力	経済力	社会における立場	自己肯定	幸福	意欲	自尊感情
身体能力	—													
健康	.533 ***	—												
容姿	.534 ***	.460 ***	—											
知的能力	.414 ***	.447 ***	.570 ***	—										
性格	.509 ***	.477	.556 ***	.618 ***	—									
人間関係	.517 ***	.440	.502 ***	.517 ***	.694 ***	—								
家庭	.447 ***	.381	.392 ***	.346 ***	.506 ***	.531 ***	—							
仕事上・家事上の能力	.355 ***	.358	.390 ***	.597 ***	.501 ***	.620 ***	.456 ***	—						
経済力	.410 ***	.415	.457 ***	.461 ***	.476 ***	.554 ***	.418 ***	.602 ***	—					
社会における立場	.537 ***	.427 ***	.498 ***	.548 ***	.584 ***	.671 ***	.486 ***	.664 ***	.772 ***	—				
自己肯定	.498 ***	.449 ***	.585 ***	.553 ***	.548 ***	.611 ***	.496 ***	.601 ***	.575 ***	.693 ***	—			
幸福	.381 ***	.431 ***	.548 ***	.429 ***	.505 ***	.581 ***	.533 ***	.580 ***	.544 ***	.617 ***	.822 ***	—		
意欲	.419 ***	.455 ***	.502 ***	.429 ***	.468 ***	.531 ***	.486 ***	.529 ***	.576 ***	.623 ***	.776 ***	.765 ***	—	
自尊感情	.398 ***	.383 ***	.543 ***	.617 ***	.525 ***	.535 ***	.437 ***	.632 ***	.488 ***	.600 ***	.800 ***	.721 ***	.764 ***	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

APPENDIX 4 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識（男性：50-60代）

	身体能力	健康	容姿	知的能力	性格	人間関係	家庭	仕事上・家事上の能力	経済力	社会における立場	自己肯定	幸福	意欲	自尊感情
身体能力	—													
健康	.415 **	—												
容姿	.397 **	.348 **	—											
知的能力	.420 **	.341 **	.322 **	—										
性格	.382 **	.329 **	.243 ***	.360 **	—									
人間関係	.293 **	.271 **	.263 ***	.303 **	.614 **	—								
家庭	.191 *	.336 **	.210 ***	.276 **	.380 **	.454 **	—							
仕事上・家事上の能力	.316 **	.318 **	.234 ***	.428 **	.437 **	.549 **	.388 **	—						
経済力	.267 **	.279 **	.271 ***	.288 **	.112	.257 ***	.283 **	.323 **	—					
社会における立場	.292 **	.309 **	.305 **	.286 **	.421 **	.506 **	.278 **	.565 **	.520 **	—				
自己肯定	.317 **	.351 **	.321 **	.467 **	.387 **	.478 **	.444 **	.515 **	.377 **	.449 **	—			
幸福	.331 **	.434 **	.260 ***	.427 **	.433 **	.489 **	.541 **	.473 **	.513 **	.513 **	.744 **	—		
意欲	.331 **	.463 **	.282 **	.396 **	.349 **	.507 **	.527 **	.542 **	.517 **	.524 **	.700 **	.716 **	—	
自尊感情	.274 **	.371 **	.319 **	.448 **	.534 **	.529 **	.429 **	.567 **	.219 ***	.469 **	.729 **	.655 **	.687 **	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

APPENDIX 5 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識（女性：10-20代）

	身体能力	健康	容姿	知的能力	性格	人間関係	家庭	仕事上・家事上の能力	経済力	社会における立場	自己肯定	幸福	意欲	自尊感情
身体能力	—													
健康	.283 ***	—												
容姿	.409 ***	.374 ***	—											
知的能力	.204 *	.251 **	.308 ***	—										
性格	.213 *	.258 **	.266 **	.373 ***	—									
人間関係	.324 ***	.232 **	.362 ***	.254 **	.381 ***	—								
家庭	.142	.374 ***	.215 **	.244 **	.273 ***	.535 ***	—							
仕事上・家事上の能力	.248 **	.179 *	.365 ***	.447 ***	.253 **	.375 ***	.349 ***	—						
経済力	.264 **	.234 **	.349 ***	.299 ***	.203 *	.324 ***	.227 **	.434 ***	—					
社会における立場	.286 ***	.234 **	.324 ***	.514 ***	.232 **	.417 ***	.291 ***	.457 ***	.620 ***	—				
自己肯定	.213 *	.137	.480 ***	.342 ***	.401 ***	.421 ***	.354 ***	.388 ***	.220 **	.392 ***	—			
幸福	.184 *	.268 **	.330 ***	.237 **	.155	.364 ***	.504 ***	.209 *	.329 ***	.391 ***	.585 ***	—		
意欲	.134	.170 *	.169 *	.298 ***	.269 **	.236 **	.168 *	.198 *	.241 **	.322 ***	.432 ***	.498 ***	—	
自尊感情	.225 **	.100	.344 ***	.280 ***	.402 ***	.427 ***	.349 ***	.357 ***	.241 **	.382 ***	.714 ***	.545 ***	.617 ***	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

APPENDIX 6 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識（女性：30-40代）

	身体能力	健康	容姿	知的能力	性格	人間関係	家庭	仕事上・家事上の能力	経済力	社会における立場	自己肯定	幸福	意欲	自尊感情
身体能力	—													
健康	.452 ***	—												
容姿	.282 ***	.403 ***	—											
知的能力	.368 ***	.392 ***	.619 ***	—										
性格	.358 ***	.366 ***	.479 ***	.503 ***	—									
人間関係	.230 ***	.453 ***	.349 ***	.349 ***	.518 ***	—								
家庭	.180 *	.329 ***	.247 **	.343 ***	.403 ***	.559 ***	—							
仕事上・家事上の能力	.248 **	.493 ***	.513 ***	.547 ***	.563 ***	.671 ***	.491 ***	—						
経済力	.267 ***	.376 ***	.487 ***	.380 ***	.348 ***	.220 **	.193 *	.414 ***	—					
社会における立場	.349 ***	.448 ***	.612 ***	.484 ***	.480 ***	.347 ***	.262 **	.574 ***	.634 ***	—				
自己肯定	.186 *	.335 ***	.440 ***	.364 ***	.420 ***	.441 ***	.403 ***	.460 ***	.293 ***	.330 ***	—			
幸福	.146	.238 **	.215 **	.257 ***	.283 ***	.342 ***	.482 ***	.357 ***	.208 *	.219 **	.711 ***	—		
意欲	.233 **	.401 ***	.373 ***	.291 ***	.402 ***	.352 ***	.382 ***	.370 ***	.329 ***	.357 ***	.643 ***	.674 ***	—	
自尊感情	.153	.330 ***	.366 ***	.401 ***	.439 ***	.375 ***	.282 ***	.462 ***	.189 *	.354 ***	.703 ***	.584 ***	.652 ***	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

APPENDIX 7 自己の諸側面の評価と自己全体の肯定的意識（女性：50-60代）

	身体能力	健康	容姿	知的能力	性格	人間関係	家庭	仕事上・家事上の能力	経済力	社会における立場	自己肯定	幸福	意欲	自尊感情
身体能力	—													
健康	.579 ***	—												
容姿	.433 ***	.442 ***	—											
知的能力	.420 ***	.339 ***	.592 ***	—										
性格	.360 ***	.363 ***	.355 ***	.416 ***	—									
人間関係	.239 **	.208 *	.235 **	.306 ***	.574 ***	—								
家庭	.273 ***	.212 **	.194 *	.261 **	.445 ***	.593 ***	—							
仕事上・家事上の能力	.390 ***	.222 **	.315 ***	.451 ***	.441 ***	.501 ***	.407 ***	—						
経済力	.269 ***	.346 ***	.228 **	.323 ***	.252 **	.196 ***	.247 **	.357 ***	—					
社会における立場	.371 ***	.401 ***	.451 ***	.507 ***	.415 ***	.420 ***	.426 ***	.457 ***	.571 ***	—				
自己肯定	.440 ***	.380 ***	.454 ***	.420 ***	.499 ***	.539 ***	.427 ***	.470 ***	.309 ***	.520 ***	—			
幸福	.242 **	.231 **	.256 **	.248 **	.384 ***	.514 ***	.505 ***	.378 ***	.357 ***	.423 ***	.733 ***	—		
意欲	.359 ***	.363 ***	.448 ***	.424 ***	.376 ***	.455 ***	.391 ***	.414 ***	.474 ***	.589 ***	.672 ***	.720 ***	—	
自尊感情	.285 ***	.269 ***	.447 ***	.483 ***	.457 ***	.462 ***	.423 ***	.508 ***	.236 **	.507 ***	.738 ***	.647 ***	.737 ***	—

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Relationship between domain-specific self-evaluations and global self-worth -self-affirmation, happiness, motivation, and self-esteem- among Japanese adults

SUZUKI, Tomohiro (*Tokyo Future University*)

This study investigated the relationship between domain-specific self-evaluations and global self-worth (self-affirmation, happiness, motivation, and self-esteem) among Japanese adults. Participants were 867 adults (423 males, 444 females, mean age=41.18, $SD=16.07$, range=15-69) in Japan. They rated 10 items about domain-specific self-evaluations. Furthermore, they rated several items assessing global self-worth (self-affirmation, happiness, motivation, and self-esteem). The analysis was performed by gender and age group. Result of regression analysis conducted in each group showed that a unique relationship was confirmed in each group on each aspect of global self-worth.

keywords: self, self-affirmation, happiness, motivation, self-esteem

—2019.12.06 受稿, 2020.01.22 受理—